

Make the world **NAMERAKA**

株主の皆様へ

第 **123** 期

中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで

NTN 株式会社

証券コード 6472

世界をなめらかにする仕事。

機械のあらゆる回転部位をなめらかにするベアリング技術。
より精密なベアリング技術があれば、軸はよりなめらかに回転し、
エネルギーロスは限りなく少なくなります。
つまりベアリングは、省エネルギーのための技術です。
ベアリングで磨いてきたその技術は、
これからの電気自動車やロボット、自然エネルギー社会までも、
なめらかに変えていきます。



企業理念

新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する

- 1 独創的技術の創造
- 2 客先及び最終消費者に適合した付加価値技術及びサービスの提供
- 3 着実な業績の伸長の下での社員の生活向上、株主への利益還元、社会への貢献
- 4 グローバリゼーションの推進と国際企業にふさわしい経営・企業形態の形成

ごあいさつ



株主の皆様へ

株主の皆様には平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々及びご遺族の皆様にご哀悼の意を表しますとともに、罹患されている方々には改めてお見舞い申し上げます。

また、医療従事者や生活インフラを支えるために尽力されている皆様にご深く感謝申し上げます。

ここに、当社の第123期中間報告書をお届けいたします。株主の皆様には今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

取締役 代表執行役 執行役社長
CEO (最高経営責任者)

鵜飼 英一

目次

ごあいさつ	02	事業形態別の概況	09	トピックス2・会社情報	14
トップインタビュー	03	連結財務諸表	11		
セグメント別の概況	07	トピックス1	13		

見通しに関する注意事項

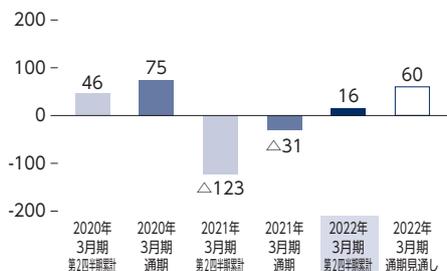
本報告書には、NTNの将来についての計画・戦略・業績に関する予測と見通しが含まれています。実際の業績は本報告書で述べられている見通しと異なる可能性があることをご承知おきください。

決算ハイライト

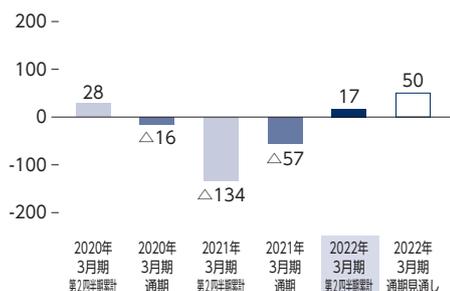
●売上高(億円)



●営業利益(△は損失)(億円)



●経常利益(△は損失)(億円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(△は純損失)(億円)



🔊 当期の配当について

当期の中間配当金につきましては、新型コロナウイルスや半導体供給不足の影響等もあり、依然として厳しい経営環境が継続しているため、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます。また、今後の見通しも不透明であるため、期末配当につきましても無配とさせていただきます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、収益回復に努め、早期の復配を目指してまいります。

配当金の推移(円)



決算説明会について

2021年11月4日に開催した2022年3月期第2四半期決算説明会の内容を動画でもご覧いただけます。



Q 当第2四半期の経営成績についてお聞かせください。

A 当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日~2021年9月30日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で極めて厳しい状況となった前年同期からは大幅な回復となりましたが、依然として厳しい状況の地域もありました。日本経済については、生産や設備投資などで持ち直しの動きが続いたものの、新型コロナウイルス感染症や半導体不足の影響などにより、その回復に足踏みがみられました。海外においては、

米国経済をはじめ、欧州経済、中国経済、アジア他のその他新興国経済で持ち直しの動きがありました。東南アジアをはじめとする新型コロナウイルス感染症の再拡大や半導体不足の影響などから、厳しい状況が続きました。

かかる状況下、本年4月から開始した新中期経営計画「DRIVE NTN100」Phase 2で掲げた諸施策を着実に実行し、事業構造の変革(Transformation)を加速すると共に、財務体質・組織体制を強化し、経営環境の変化にしなやかに対応できる企業体質の構築を目指します。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、極めて厳

しい状況であった前年同期からは大幅に増加し、305,796百万円（前年同期比27.8%増）となりました。損益につきましては、鋼材価格の上昇などはありましたが、販売規模の増加などにより営業利益は1,608百万円（前年同期は12,323百万円の営業損失）、経常利益は1,702百万円（前年同期は13,426百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,048百万円（前年同期は14,413百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。



Q 新中期経営計画 「DRIVE NTN100」Phase 2の 取組みについて教えてください。

A 当社グループは、「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」という企業理念の実践を通じて、世界を取り巻く社会的課題の解決に貢献し、人と自然が調和し、人々が安心して豊かに暮らせる「なめらかな社会」の実現を目指しています。

国際社会の目標（2030年SDGs等）の達成に向け、マテリアリティを特定しESG経営を推進するとともに、「カーボンニュートラル（環境負荷低減・脱炭素）」と「安全安心、快適性の追求」に繋がる分野に研究開発資源を集中し、将来の成長に向けた研究開発活動を加速してまいります。

本年4月から開始した3年間の新中期経営計画「DRIVE NTN100」Phase 2では、前中期経営計画で掲げた事業構造の変革（Transformation）を加速するという方針は変わらず、3年間で財務体質の強化期間と位置づけ、経営環境の変化にしなやかに対応できる企業体質の構築を目指します。

新中期経営計画 「DRIVE NTN100」Phase 2の概要

1. 基本戦略

(1) 事業構造の変革

デジタル技術と当社が培った経営資源を融合させ、DXに向けた事業構造の変革を加速させます。「経営管理の更なる高度化」に向けて、基幹システムの刷新により販売／生産／調達／物流を一気通貫で見える化し、需要変動にも即応する在庫の最適保有とグループ内の在庫活用を推進するほか、IoT、AIの導入と製造工程の全体最適化・整流化によってスマートファクトリ化を推進します。

また、状態監視システム（CMS）の導入拡大による風力発電や鉄道車両等の稼働状態のモニタリング、AIを組み合わせた故障の事前予知等、新たなビジネスの創出、拡大に取り組んでまいります。

(2) 財務体質の強化

① 損益分岐点売上高の引き下げ

調達改革による比例費低減、間接部門を中心と



した固定費の抑制、低収益事業の売価改善・販売縮小等により付加価値を向上させ、目標とする売上高の8割程度でも利益を出せる体質を目指します。

②投資効率の追求

生産管理の徹底と自前主義からの脱却（外部活用）により投下資本を圧縮、経営資源は技術の強みを発揮できる商品・工程に集中します。設備投資については、能力増強投資を原則凍結し、生産性向上に繋がる効率化・省人化投資を推進します。

③選択と集中によるキャッシュ・フローの最大化

遊休資産や保有有価証券の売却、事業統廃合等の選択と集中を推し進め、キャッシュ・フローの最大化を目指します。

取組み状況

現在、半導体不足などの影響により自動車向け需要が減少する中、固定費の削減を徹底するとともに、自動車部門の余剰人員を活用して、高収益が見込まれる補修市場向け製品供給の拡大に取組んでいます。さらに、鋼材価格の上昇に対しては、売価転嫁や値引き抑制によって増加

コストを吸収して利益改善を図っています。また、更なるキャッシュ・フローの改善のため、設備投資は引き続き必要最小限に抑制するとともに、政策保有株式や遊休資産の段階的な売却を進めています。

2. 事業別戦略

(1) 補修事業

OEM・補修共通の販売戦略の下、組織の枠を越えてターゲット業種を攻略します。供給能力の強化による常備在庫の拡充、技術キャラバン部門の設置によるアセアン・インド地区での顧客向け技術サポート・サービス対応の強化、自動車補修部門・機能の再編等の施策を進め、販売拡大に繋がります。

また、センサー技術とIoTを活用し、「しゃべる軸受」・「考える軸受」の早期開発による状態監視ビジネスの確立と補修需要の囲い込み、遠隔支援カメラ等を活用した技術サービスの拡大を通じて、これまでのハードの売り切りからソフト・サービスを加えたビジネスへの変革を実現し、補修事業拡大を目指します。

取組み状況

グローバルで需要が回復基調となる中、高収益が見込まれる補修市場向け製品供給を確保すべく、常備在庫の管理体制を強化しています。また、コロナ禍でお客さまへの訪問機会が制約される中、リモートによる技術講習会の開催等を通じて技術サポートサービスを継続するとともに、「NTNポータブル異常検知装置」を活用した顧客設備の状態監視の提案等に取り組んでいます。

(2) 産業機械事業

業種別戦略を明確に定め収益基盤を強化します。成長領域と位置づけた業種（変減速機、風力発電、工作機械、鉄道車両等）に経営資源を投入し販売拡大を目指します。また、収益基盤を強化すべき収穫領域と位置づけた業種（建設機械、農業機械、航空・宇宙等）は、中国・インド材等を活用した抜本的な原価低減や生産性の向上、低収益・不採算型番の売価改善や販売縮小・撤退等の収益改善施策を進めます。

一方、将来の成長に向けた新領域の早期確立を目指し、CMS活用による風力発電向け軸受メンテナンスサービスや、手首関節モジュール「i-WRIST（アイリスト）」を活用した省人化の提案を進めます。

産業機械事業は、既存商品の収益基盤強化と新領域の早期確立により、利益ある事業への変革を進めます。

取組み状況

本年4月にソリューションビジネスセンターを新設し、ロボティクス、サービスソリューション事業の推進体制を強化しました。また、風力発電機向け軸受の生産設備を増強し、本年10月から増産を開始するなど、成長領域・新領域に経営資源を投入するとともに、不採算ビジネスに対する値上げ・撤退に取り組んでいます。

(3) 自動車事業

SUVや電気自動車（EV）等の高成長・高収益の車両セグメントへの受注シフトを進めるとともに、調達改革による比例費低減とものづくり改革の推進、売価管理の徹底等に取り組むことで、自動車

事業の利益率向上を図ります。同時に、電動モジュール商品や軽量・高効率・低フリクション等の高機能製品の販売を拡大し、技術対応力の強化を進めることで、CO₂排出量削減、カーボンニュートラルに貢献してまいります。グローバルで加速する「EV化・電動化」に対して、基盤商品のハブベアリングやドライブシャフトでは高効率・低振動・低フリクション等の技術的な優位性を活かした販売機会の獲得を進め、電動オイルポンプやeHUB/sHUB、電動ブレーキ等の新商品を扱う新領域分野で早期の事業化を目指してまいります。

取組み状況

「EV化・電動化」の加速、SUVの需要拡大は着実に進んでおり、これらのセグメントの市場成長を上回る販売・利益の拡大を目指しています。本年5月、車両情報をもとに後輪の転舵角度を左右別々に制御することが可能な「Ra-sHUB（ラスハブ）」を開発しました。危険回避時の安全走行や通常走行時の乗り心地改善、燃費向上に貢献する商品として提案を進めています。各国でカーボンニュートラルのニーズが顕在化する中、燃費やCO₂規制の強化に対応する高機能商品・技術サービスの提供など、当社グループの強みを活かすことで販売機会の獲得を進めています。

当社グループは、「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」という企業理念のもと、新中期経営計画「DRIVE NTN100」Phase 2の確実な達成を通じ、企業価値の向上に邁進してまいります。株主の皆様には今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

セグメント別の概況

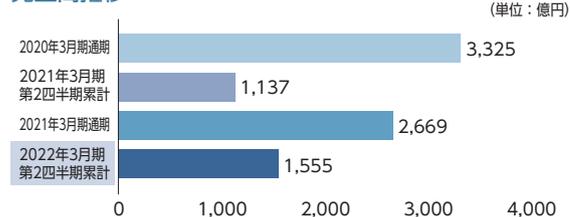
日本

2022年3月期
(第2四半期累計)

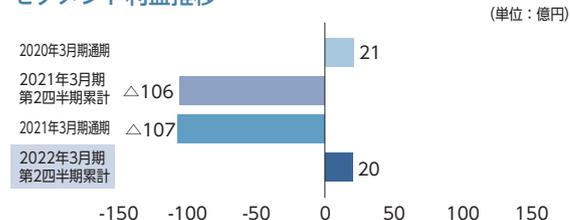
売上高
1,555 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向けで増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けや変速機向けなどで増加し、航空機向けや鉄道車両向けなどで減少しました。自動車市場向けは客先需要の拡大などにより増加しました。全体としては、売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大きく落ち込んだ前年同期から大幅に増加しましたが、半導体不足の影響などにより当初の見込みからは大幅に減少し、155,530百万円(前年同期比36.7%増)となりました。セグメント損益は販売規模の増加などにより2,025百万円のセグメント利益(前年同期は10,682百万円のセグメント損失)となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



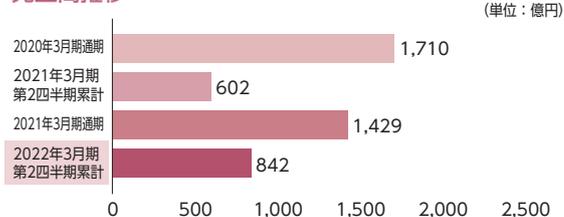
米州

2022年3月期
(第2四半期累計)

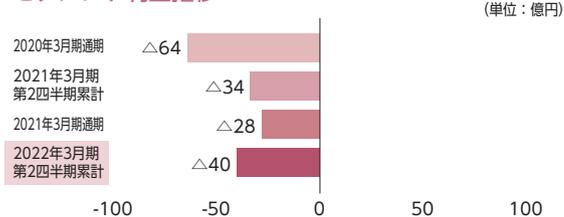
売上高
842 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向け及び自動車補修向けともに増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けや農業機械向けなどで増加し、自動車市場向けは客先需要の拡大などにより増加しました。この結果、売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大きく落ち込んだ前年同期から大幅に増加しましたが、半導体不足の影響などにより当初の見込みからは大幅に減少し、84,231百万円(前年同期比39.8%増)となりました。セグメント損益は販売規模の増加などはありましたが、鋼材価格の上昇や固定費の増加などの影響が大きく前年同期より悪化し、4,034百万円のセグメント損失(前年同期は3,444百万円のセグメント損失)となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



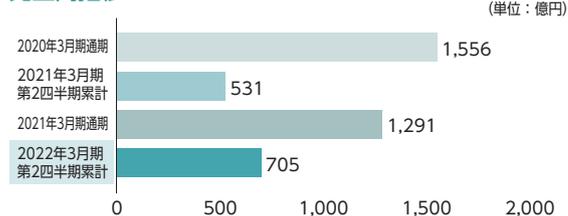
欧州

2022年3月期
(第2四半期累計)

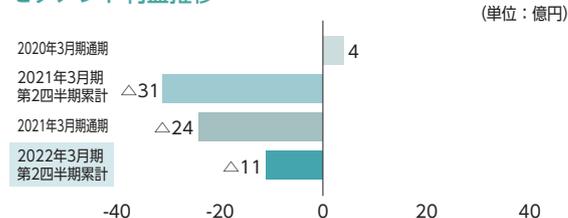
売上高
705 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向け及び自動車補修向けともに増加しました。産業機械市場向けは航空機向けや変減速機向けなどで増加し、風力発電向けなどで減少しました。自動車市場向けは客先需要の拡大などにより増加しました。全体としては、売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大きく落ち込んだ前年同期から大幅に増加しましたが、半導体不足の影響などにより当初の見込みからは大幅に減少し、70,508百万円(前年同期比32.6%増)となりました。セグメント損益は販売規模の増加などはありませんでしたが、固定費の増加などにより1,191百万円のセグメント損失(前年同期は3,195百万円のセグメント損失)となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



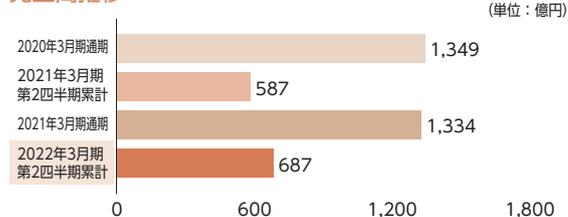
アジア他

2022年3月期
(第2四半期累計)

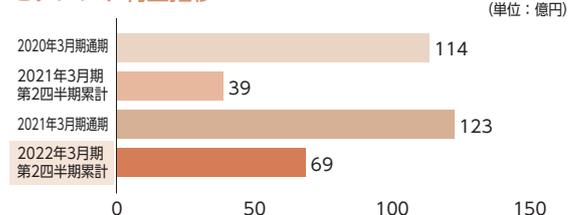
売上高
687 億円

販売につきましては、補修市場向けは産業機械補修向け及び自動車補修向けともに増加しました。産業機械市場向けは建設機械向けや農業機械向けなどで増加しましたが、風力発電向けなどで減少しました。自動車市場向けは客先需要の拡大などにより増加しました。全体としては、売上高は前年同期から増加しましたが、半導体不足の影響などにより当初の見込みからは大幅に減少し、68,719百万円(前年同期比16.9%増)となり、セグメント損益は販売規模の増加などにより6,987百万円のセグメント利益(前年同期比74.8%増)となりました。

売上高推移



セグメント利益推移



*上記のセグメント情報には、セグメント間の取引が含まれております。

事業形態別の概況

補修市場向け

2022年3月期
(第2四半期累計)

売上高 **540** 億円

客先需要の拡大などで 増収増益

客先需要の拡大などにより売上高は、54,088百万円(前年同期比26.2%増)となりました。営業損益は販売規模の増加などにより6,869百万円の営業利益(前年同期比202.6%増)となりました。

産業機械、自動車のメンテナンスニーズに対応するさまざまな商品を提供しています。商品の納入後も、技術講習会の開催等でお客さまの設備の生産性向上と安定稼働をサポートしています。

オートパーツ



複数のベアリングを組み合わせたパーツキット

食品機械 向け



食品機械用ポリループ封入軸受

NTNポータブル異常検知装置



リモート技術支援サービス



産業機械市場向け

2022年3月期
(第2四半期累計)

売上高 **610** 億円

建設機械向けの増加などで 増収増益

建設機械向けや農業機械向けの増加などにより売上高は、61,090百万円(前年同期比30.3%増)となりました。営業損益は販売規模の増加などにより1,385百万円の営業利益(前年同期は1,363百万円の営業損失)となりました。

建設機械や変減速機、農業機械、風力発電装置、航空・宇宙、鉄道車両等さまざまな産業機械分野で、低トルク化、小型・軽量化とともに軸受による環境負荷低減を実現しています。

建設機械 向け



資源探掘や土木建設で活躍

風力発電装置 向け



高まる再生可能エネルギーの需要に対応

航空・宇宙 向け



世界のジェットエンジンに採用

鉄道車両 向け



世界の高速鉄道の安全を支える

固定費の増加などにより営業損失にとどまる

売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で客先の操業停止が相次いだ前年同期から増加し、190,616百万円(前年同期比27.5%増)となりましたが、半導体不足に伴う客先の生産減の影響は、当初の想定より大きなものとなりました。営業損益は販売規模の増加効果はあったものの、固定費の増加や客先の生産減が当初の想定より大きなものとなった影響などにより、6,646百万円の営業損失(前年同期は13,230百万円の営業損失)に留まりました。

基盤商品の高機能・高付加価値化とともに、モジュール商品の開発を推進しています。さらに、自動車の電動化、自動運転に向けて「電動モータ・アクチュエータ」等を展開しており、自動車の低燃費化や乗り心地の向上といった従来のニーズならびに急速に進む電動化のニーズにも対応しています。

【エンジン】

ロッカーアーム用
ニードルローラ
ベアリング

【ステアリング】

次世代ステアリング用
メカニカルクラッチユニット

【電装補機】

ISG搭載エンジン用
可変ダンパ式
オートテンショナ

【トランスミッション】
AT・MT

遊星ギア用
保持器付き針状ころ

超低フリクション
シール付玉軸受

【足回り】

ドライブシャフト

ハブベアリング

CASEに対応するNTNの新品

C Connected
コネクテッド
(つながる)

A Autonomous
(自動運転)

S Shared/Service
シェアリング(共有)/
サービス

E Electric
(電動化)

モータ・ジェネレータ機能付
ハブベアリング
「eHUB」イーハブ

後輪用ステアリング機能付
ハブベアリング
「Ra-sHUB」ラスハブ

電動オイルポンプ

電動モータ・アクチュエータ

*構造を見やすくするため、一部商品はカットした写真を掲載しています。
*事業形態別の代表的な商品例を掲載しています。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2021年9月30日)	前期 (2021年3月31日)	科目	当第2四半期 (2021年9月30日)	前期 (2021年3月31日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	476,384	485,756	流動負債	295,514	292,346
現金及び預金	134,170	154,969	支払手形及び買掛金	53,793	55,468
受取手形及び売掛金	104,997	116,604	電子記録債務	62,153	62,815
電子記録債権	5,319	4,996	短期借入金	122,051	121,836
商品及び製品	99,745	91,848	未払法人税等	2,379	2,125
仕掛品	55,110	48,600	役員賞与引当金	17	36
原材料及び貯蔵品	46,651	36,397	その他	55,118	50,064
短期貸付金	52	68	固定負債	341,816	360,466
その他	31,395	33,282	社債	80,000	80,000
貸倒引当金	△1,058	△1,011	長期借入金	200,366	220,967
固定資産	350,411	350,806	製品補償引当金	390	1,082
有形固定資産	258,866	260,443	退職給付に係る負債	40,767	39,920
建物及び構築物(純額)	86,449	87,314	その他	20,291	18,495
機械装置及び運搬具(純額)	115,159	112,164	負債合計	637,330	652,812
その他(純額)	57,257	60,965	(純資産の部)		
無形固定資産	44,240	40,363	株主資本	173,189	174,321
投資その他の資産	47,304	49,999	資本金	54,346	54,346
投資有価証券	40,923	43,836	資本剰余金	67,970	67,970
繰延税金資産	2,048	2,437	利益剰余金	51,738	52,786
その他	4,536	3,938	自己株式	△866	△782
貸倒引当金	△203	△213	その他の包括利益累計額	△1,241	△3,794
資産合計	826,796	836,563	その他有価証券評価差額金	8,650	8,646
			為替換算調整勘定	△4,763	△6,865
			退職給付に係る調整累計額	△5,128	△5,575
			非支配株主持分	17,517	13,224
			純資産合計	189,465	183,751
			負債純資産合計	826,796	836,563

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期(第2四半期累計)	前期(第2四半期累計)
	[2021年4月1日から 2021年9月30日まで]	[2020年4月1日から 2020年9月30日まで]
売上高	305,796	239,221
売上原価	254,825	209,156
売上総利益	50,970	30,064
販売費及び一般管理費	49,362	42,387
営業利益又は営業損失(△)	1,608	△12,323
営業外収益	3,805	3,102
受取利息	435	403
受取配当金	390	360
持分法による投資利益	497	—
デリバティブ評価益	956	—
為替差益	—	780
その他	1,525	1,557
営業外費用	3,711	4,205
支払利息	2,187	1,660
持分法による投資損失	—	80
為替差損	465	—
デリバティブ評価損	—	1,286
その他	1,058	1,178
経常利益又は経常損失(△)	1,702	△13,426
特別利益	—	3,936
助成金収入	—	3,936
特別損失	98	3,404
独占禁止法関連損失	98	76
異常操業度損失	—	3,328
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,603	△12,894
法人税等	1,881	881
四半期純損失(△)	△277	△13,775
非支配株主に帰属する四半期純利益	770	637
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,048	△14,413

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期(第2四半期累計)	前期(第2四半期累計)
	[2021年4月1日から 2021年9月30日まで]	[2020年4月1日から 2020年9月30日まで]
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,129	△12,450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,023	△15,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22,784	35,991
現金及び現金同等物に係る換算差額	△91	307
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△21,769	8,546
現金及び現金同等物の期首残高	147,249	71,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	125,479	79,711

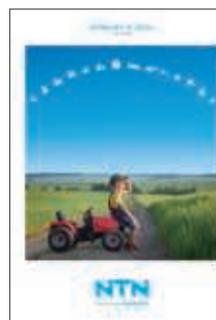
NTNニュース配信登録のご案内

配信登録いただきますと、ニュースリリースなど、当社の情報を電子メールでお届けします。ご登録はこちらをご参照ください。

<https://www.ntn.co.jp/japan/newsmail.html>



※本配信サービスは、三菱UFJ信託銀行(株)証券代行部が運営しています。



「NTNレポート2021」を 発行しました。

すべてのステークホルダーのご理解とご支援を賜ることが重要であると考え、経営計画や業績に加えて、CSR活動、環境保全への取組みなどを日英二カ国語で積極的に開示しています。

高機能・高付加価値化で カーボンニュートラルに貢献する自動車市場向け商品

自動車市場におけるカーボンニュートラルのニーズの高まりやCO₂規制の厳格化が進むにつれ、自動車の機能部品には従来の内燃機関車両と異なる特性や、よりシビアな性能が求められています。

NTNではこれらのニーズに対して「小型・軽量」、「高回転」、「低トルク・低騒音・低フリクション」などを実現する商品を開発・提案し、高機能商品のラインナップと課題解決力で競争優位を確保すると同時に、環境負荷低減・脱炭素に貢献してまいります。

NTN製品の
高機能・高付加価値化

EV/電動化・
CO₂排出量削減を支える

NTNの
競争優位を確保
環境負荷低減・
脱炭素に貢献



トランスミッション用
「超低フリクション
シール付玉軸受」

本商品は回転トルクの80%低減(従来品比)と、長寿命の両立を実現しており、EVやHEVなどより高い回転性能が求められる車両においてもその特長を発揮することができます。



サブアクスル・リア用小型
軽量等速ジョイント

前輪駆動ベースの4WD車のリア向けとして、従来品から大幅な小型・軽量化を実現します。成長が見込まれるSUV車マーケットにおける車両の軽量・低燃費化に貢献します。

*構造を見やすくするため、カットした写真を掲載しています。



低フリクション
ハブベアリングⅢ

低フリクション化を追求したグリースの開発等により、回転フリクションを従来品比で62%低減を実現することで、あらゆる自動車でも重要性が高まっている走行時の消費エネルギーの削減に貢献します。

トピックス 2

ソフト・サービスを加えたビジネスへの変革 リモート技術支援サービスを開始

NTNは、軸受(ベアリング)に関わるお客さまの設備の困りごとを、ウェアラブル端末などを用いてリモートでサポートする技術支援サービスを開始しました。頻発する豪雨や地震などの災害時やコロナ禍における移動制限などの状況下においても、これまで以上に迅速に設備の安定稼働・早期復旧に貢献します。

NTNは、ハードの売り切りだけでなく、顧客満足度の向上につながる技術サービスも提供するビジネスへ変革を進め、補修事業の更なる拡大を図ってまいります。



主なサービス内容

1. ベアリングに関するご相談や問題解決
2. NTNポータブル異常検知装置による軸受診断
3. NTN商品の取扱い説明

会社情報 (2021年9月30日現在)

■ 当社の概要

社名	NTN株式会社
商標	NTN
創業	1918年3月
設立	1934年3月
資本金	543億円
従業員	5,873名(連結:23,239名)
事業内容	軸受、ドライブシャフト、 精密機器商品等の製造及び販売

■ 取締役

取締役	鷓飼 英一	社外取締役	津田 登
取締役	宮澤 秀彰	社外取締役	川原 廣治
取締役	白鳥 俊則	社外取締役	川上 良
取締役	江上 正樹	社外取締役	西村 知典
取締役	大久保 博司	社外取締役	小松 百合弥
取締役	大橋 啓二		

■ 執行役

代表執行役 執行役社長	鷓飼 英一*	執行役	江上 正樹*
代表執行役 執行役	宮澤 秀彰*	執行役	皆見 章行
執行役	寺阪 至徳	執行役	十河 哲也
執行役	尾迫 功	執行役	播磨 悦
執行役	白鳥 俊則*	執行役	山本 正明
執行役	市川 博幸		

*取締役を兼務する執行役

株式情報 (2021年9月30日現在)

株主数及び株式数

- 株主数..... 54,699名
- 発行済株式数..... 532,463,527株
(自己株式844,434株を含む)

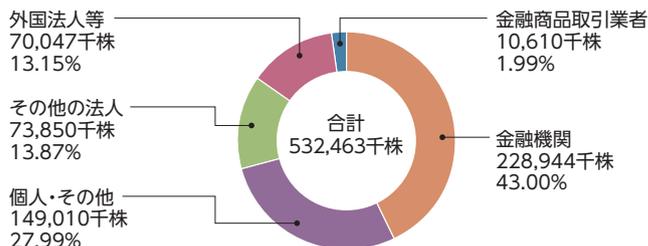
大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率** (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	74,749	14.06
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	23,691	4.45
第一生命保険株式会社	23,278	4.37
明治安田生命保険相互会社	22,467	4.22
NTN共栄会	15,822	2.97
株式会社三菱UFJ銀行	15,172	2.85
NTN従業員持株会	10,963	2.06
日本生命保険相互会社	9,206	1.73
三菱UFJ信託銀行株式会社	8,309	1.56
東京海上日動火災保険株式会社	6,992	1.31

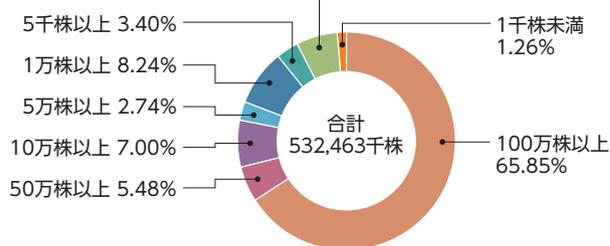
**持株比率は自己株式数を控除して計算しております。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 事業年度終了後3か月内
- 基準日 毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において権利を行使することができる株主とします。その他必要あるときは、あらかじめ公告して、基準日を定めます。
- 剰余金の配当 3月31日
- 受領株主確定日 9月30日
- 中間配当 電子公告
- 受領株主確定日 電子公告
- 公告方法 電子公告
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の場合のホームページアドレス
(<https://www.ntn.co.jp>)
- 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関
〒100-8212
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

- 同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

- ご注意
 - 1.株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
 - 2.特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本店でもお取次ぎいたします。
 - 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。